

旧川越織物市場保存・再生計画

提 案 書



平成13年11月

旧川越織物市場の保存・再生を考える会

Contents

第1章 川越市の現況認識	1
1-1 川越市の概況	1
1-2 川越市の歴史的資源の位置付け	1
第2章 旧川越織物市場の歴史的価値と 保存・再生に向けて	4
〈参考資料：2章関連〉	
第3章 現状の課題と問題点	8
3-1 市レベルから見た視点	8
3-2 当該地域から見た視点	10
第4章 基本方針	12
第5章 保存・再生計画	14
第6章 今後の課題と活用に向けて	16
〈参考資料〉	

第1章 川越市の現状認識

旧川越織物市場保存・再生計画

第1章 川越市の現状認識

1-1 川越市の概況

川越市は、埼玉県南西部地域に位置し、面積は109.16km²、東京都心より30km圏内に位置し、鉄道路線の充実により都心への通勤・通学等の便が良かったため、ベッドタウンとして発展しました。古くから交通の要衝として栄え、現在も鉄道のほか、関越自動車道、国道16号などの幹線が交差し、首都圏中央連絡道路（圏央道）の建設も進んでいます。

また、地方分権の実行の段階において、川越市にとって最も大きな発展の契機となるのが「中核市」への移行であり、政令指定都市に次いで多くの権限を持つことになる都市制度で、平成15年4月の以降を目指しています。

また、本市の産業は、農業、商業、工業がバランスよく発展しています。一方、蔵造りの町並みや時の鐘、川越城本丸御殿、喜多院、川越まつりなど、かつて江戸とのつながりの中で発展してきた歴史を今に伝えるものが多く残っています。こうした江戸の情緒を今に伝えるまちとして「小江戸」と呼ばれるなど、首都圏における観光地として親しまれ、年間約400万人もの人が訪れています。このように年々増加傾向にある観光客に対し、観光面での取り組みは本市においては極めて重要であり、歴史的資源の積極的活用や新たな観光資源の発掘、安全かつ快適に散策できる道路の整備や、団体客が休憩できる施設や公衆トイレ、ポケットパーク、観光案内所等の整備などが求められています。

1-2 川越市の歴史的資源の位置付け

旧川越織物市場保存・再生計画を推進する上で、『第二次川越市総合計画』をはじめとする上位関連計画等の中から、本市における歴史的建造物・町並み景観、観光等活性化に関連するものについて整理すると以下のとおりであります。

◆第二次川越市総合計画 後期基本計画 『未来に萌える歴史のまち』（平成13年3月川越市）

『未来に萌える歴史のまち』とは、輝かしい未来に向かって、全市民が一体となり夢と希望に萌え、新しい歴史を刻んでいこうというものです。

●基本構想の理念：『3. 川越のまちと自然を愛し、歴史と伝統を大切にするまちを目指します。』 郷土の伝統と自然を大切に、文化の香りたかい本市の風土を継承できるまちをつくります。

●将来都市像：『自然と歴史を生かし、市民がいきいきと、新しい暮らしを創造するまち』

第1章 川越市の現状認識

●地域にはぐくまれた伝統文化の継承、市民文化の創造

本市は県内でも有数の伝統文化が息づくまちと言われ、多くの観光客が蔵造りの町並みを訪れています。これまで主に文化財の保存に重点を置いてきた施策を今後は更に広げ、町並みの保存や歴史的建造物の復元などに積極的に取り組んでいくことが必要です。歴史的な町並みについては、更に価値の検証に取り組み、今後伝統的建造物群保存地区の拡大や、周辺地域についての都市景観条例に基づく都市景観形成地域の指定などを合わせ、歴史的景観の更なる保全と、地区における取り組みを含む体制の強化を図る必要があります。以下略

●景観に配慮したまちづくり

基本方針：長い間に培われてきた歴史や文化を大切にしながらも、積極的に新しいものを取り入れ、創造し、認めていく市制が、次世代への都市景観をはぐくんできます。また、優れた景観の形成には、市民の理解と協力とともに、行政の先導的な役割が欠かせません。中略

更に、都市景観重要建築物等の指定により、歴史的な建造物等を生かしたまちづくりを地域住民の理解と協力を得て推進します。

●観光資源の活用と観光施設・サービス等の充実

基本方針：観光客が快適に市内の散策ができるよう休憩所、駐車場などの施設整備及び安全に配慮した道路等の環境整備を推進します。

史跡及び川越まつりなどを活用し、広域的な観光客誘致といわゆるリピーターの増加を図るため、新たな観光資源の発掘に努めるとともに、商業と観光とを相互に連携させ本市の産業の活性化の推進を図ります。

〔写真一1〕蔵づくりの町並み



第1章 川越市の現状認識

◆川越市都市計画マスタープラン（平成12年3月 川越市）

- 都市づくりの理念：川越市の特長である緑と水の豊かな自然と歴史・文化・伝統を生かしたまちづくりを目指します。
- 土地利用の方針：歴史、景観資源の保全・活用と都市生活に対応した住宅地への改善
- 地域別構想（本庁地区：当該地区）：時代（とき）がささやき、風かおる出あいの街
- 景観まちづくりの方針：優れた歴史的資産の保全と活用による、川越らしさのある歴史・文化景観の形成。地域特性を生かし、ゆとりと調和のとれた町並み景観の形成

◆埼玉県新5か年計画 『環境優先 生活重視 埼玉の新しいくにづくり』

（平成10年2月 埼玉県）

●西部複合都市圏（圏域整備の方向）

歴史と文化を有する川越市、新しい商都として発展している所沢市を圏域の核として、首都圏中央連絡自動車道など東西方向の交通軸の強化によって、沿道に産業拠点の集積を図り、新しい文化と産業の発展する都市圏を形成します。

第2章 旧川越織物市場の歴史的価値と保存・再生に向けて

第2章 旧川越織物市場の歴史的価値と保存・再生に向けて

「旧川越織物市場」の産業遺産として、あるいは市場建築としての稀少価値について、市当局、県当局には、十分にご理解いただいているものと承知しております。それは市立博物館において「織物市場」の精工な20分の一模型（写真－2）が再現され、さらに丁寧なビデオによる説明展示が行われていることにより明らかです（参考文献1、コメントA）。また、いままでの保存・買い取りの経緯について、市の姿勢は保存に向けて誠意ある対応と認識しております。また、埼玉県近代化遺産調査報告書のなかでも、織物市場の価値と保存の必要性が1節を割いて強調されていることにより、県の保存に対する理解も承知しております（参考文献2、コメントB）。ただし、今回の解体・マンション建設の事態は、「織物市場」保存に与えられた最後のチャンスであり、もし、失敗したならば、その遺産は永久に失われます。私たち市民も、400万人を超える観光で訪れる方々に見ていただきたいものは、小江戸川越・文化都市川越であり、マンションを見ていただくものではないことは論を待ちません。住民として市を応援し、保存・再生していく決意しております。署名活動への大きな反響は、市民・観光客の皆様の総意です。

私たちは「織物市場」保存に尽力された先人に敬意を示すとともに、小江戸川越、文化都市川越の名と名誉に恥じないよう対応し、後世へと文化遺産を伝えていきます。この章では、もう一度、歴史的視点より「織物市場」の価値を確認し、保存・再生への決意を確かなものにします。

〔写真－2〕博物館の模型写真



旧川越織物市場とは（参考文献1－7）

「旧織物川越市場」は明治43年、織物産業において、関東平野中心部川越の地位向上を目指して、旧鉄砲町（現松江町2丁目）に建造されました。組合設立に関与した33人の町人のなかには、一番街に現存する蔵造り・店倉を建造した豪商も数多く含まれます。織物市場と川越一番街との深い関係が偲ばれます。この地は、旧川越市街地の南に隣接し、現本川越駅、チンチン電車：久保町駅への交通の便も想定して建設されたものと思われる。

「川越織物市場」は広い中庭とそれを挟んだ東西2棟の町屋風長屋から成っています。東棟は10間口と組合事務所、西棟は12間口からなり、各間口に1店舗が入りました。各間口は、1階が店舗、2階が倉庫として使われました。その活気ある様子は、古写真や市立博物館の模型展示での人物の表情から十分に感じ取ることができます（参考文献1）。模型のみならず、その建築物がほぼ現存しています。

一方、「旧川越織物市場」に通じる立門前からの路地には、時代を感じさせる3棟の木造建築が残されています。これらのうち、1棟は当時の織物市場に出入りする人々への食堂として利用されていました。「栄養食配給所」という時代を感じさせる建物残り、ここは、織物市場廃止後も、戦中戦後の配給所として用いられてきたとのこと。織物市場のレトロ感を否応なく高め、戦前に誘うタイムマシンのようです。

なお、関東各地に開設された織物市場建築（たとえば、東京都八王子市、群馬県桐生市、栃木県足利市など）はすでに失われています。一例として、群馬県桐生市では、川越が範を求めた織物市場（第一物産売買所）が明治16年に設置されました。現存する「川越織物市場」と見まがうばかりの古図が伝えられています。当地においても、解体を免れたわずか1間口分が改築されながらも住居として残されているのみです（参考文献8－10）。「川越織物市場」が奇跡的に残ったその価値を痛感させられます。

「旧川越織物市場」のその後と、保存再生に至る経緯：

「川越織物市場」は、活況を呈しましたが、その後浮き沈みを繰り返し、ついに大正末期には、終焉を迎えました。一説には、他織物産地が高級化・機械化を図ることにより生き残りに成功したのに対し、川越では、依然として手工業的状況から抜け出すことができずに、時代から取り残されたとのこと。しかしながら、その後、川越織物産業が衰退したこと、「織物市場」建築が住居として利用されてきたことにより、織物市場建築が奇跡的に現代まで生き残ったと言われています。また、居住者、建物権利者、地権者の権利関係が複雑なことも解体を免れてきた原因と考えられます。

ところが、この権利関係の複雑さが、いざ文化財として保存するとなったときには災いしたとも聞いております。今回は、この複雑な権利関係がマンション業者に1本化しています。最後の機会とはなりましたが、言いかえれば、保存に向けた機が熟したとも言えます。わたしたちが、今回、文化財保護を目的として活動を開始できたのも、「織

第2章 旧川越織物市場の歴史的価値と保存・再生に向けて

物市場」が地元地権者の手を離れたこと、マンション建設のために解体される危機に瀕し、不肖遅れ馳せながら川越の文化・歴史・地域環境の保全へ住民の果たすべき役割に気づき、思いを熱くしたことによります。

「旧川越織物市場の保存・再生を考える会」を、「松江町2丁目自治会」、「川越蔵の会」、「立門前商栄会」、「川越唐棧の会」を発起人として設立いたしました。その活動は広く、新聞各社により、埼玉県内のみならず、関東各地に配信されています（11）。私たちの活動は、今回の「織物市場」の保存再生のみならず、小江戸川越を愛するものの使命として、今後も歴史文化の誉れ高き川越をまもっていく大きな運動として育てていきます。

この章のおわりに：

「川越織物市場」設立は、当時、市長の諮問により開始されましたが、実際の建造・運営には、民間団体：織物共同組合があたったという経緯があります。いま、織物市場の保存再生という新しい出発にあたり、行政と私たち市民が手を携えてその任にあたることは、その創設時より課せられた「川越織物市場」の使命であるともいえます。私たちは、近代化遺産として最もふさわしいといわれる「旧織物市場」を後世に伝えることへ参画できますことを祈念します。また、保存・再生を勝ち得た川越市民として、小江戸の粋と文化を多くの訪問頂く方々に存分に堪能いただく手助けができますことを祈念します。この活動は小江戸川越の歴史の1ページです。

〈参考資料：2章関連〉：

(1) 川越市立博物館 常設展示図録 2000年版 118-121 ページ

ホームページ：<http://www6.ocn.ne.jp/%7Ekawahaku/hakubutukan-1.htm>

(2) 埼玉県近代化遺産調査報告書 1996年、埼玉県教育委員会

川越市の調査例 67 件のうち、産業商業分野の筆頭。

名称：川越織物市場 所在地：川越市松江町2丁目-11-10

分野：産業 種別：商業

竣工年：明治43年 主な材質：木

概要：明治時代の市場建築で、旧状をよくとどめる。この種の建築では関東唯一の残存例。一部を住宅に改造。

「(69ページ) 明治43年、旧鉄砲町に建てられた旧織物市場は、織物取引のための市場建築としては関東地方でただ1つ残存するものである。明治末年にかけて、綿織物類の集散で新興の所沢におされつつあった川越商人たちが、勢力挽回を記して共同で設立したという経緯をもつ。風雪に絶え、閉鎖後は集合住宅として再利用されることで解体を免れている。この貴重な市場建築は川越の近代化遺産としてもっともふさわしいもので、なんとかして歴史的町並みの一員にくわえ、織物資料館のような施設として再生できないものか。」

第2章 旧川越織物市場の歴史的価値と保存・再生に向けて

(3) かわら版川越唐棧 第14号 平成13年3月発行

川越蔵の会ホームページに転載：

<http://www1.odn.ne.jp/~kuranokai/orimono/index.htm>

(4) 川越市史

(5) 第2回企画展：写真展 明治・大正・昭和の川越 川越市立博物館 1990年

(6) 埼玉ふるさと散歩：川越市 新井 博著、さいたま双書 平成4年

(7) わが町川越歴史散歩－小江戸の残照 小泉 功 ルック 1995年

(8) 桐生市史 中巻 昭和34年

(9) 思いでのアルバム桐生 1982年

(10) 桐生本町の町並み 1994年

(11) 朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、東京新聞 2001年11月10日(土)

コメント：

(A) 市政への提案からの回答：

「旧織物市場」につきましては、産業遺産としてあるいは市場建築としての稀少価値はあるものと理解しております。」

(B) 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課

「本日、川越織物市場についてメールを受け取りました。この件につきましては、川越市教育委員会に現状を問い合わせしております。」

第3章 現状の課題と問題点

第3章 現状の課題と問題点

『第1章 川越市の現状認識』『第2章 川越織物市場の歴史的価値と保存・再生に向けて』を受けて、川越市の現状の課題と問題点について、市レベルと旧川越織物市場の位置する松江町2丁目や、立門前商栄会等周辺地域（以下、当該地域という）から見た視点で整理すると以下のとおりとなります。

3-1 市レベルから見た視点

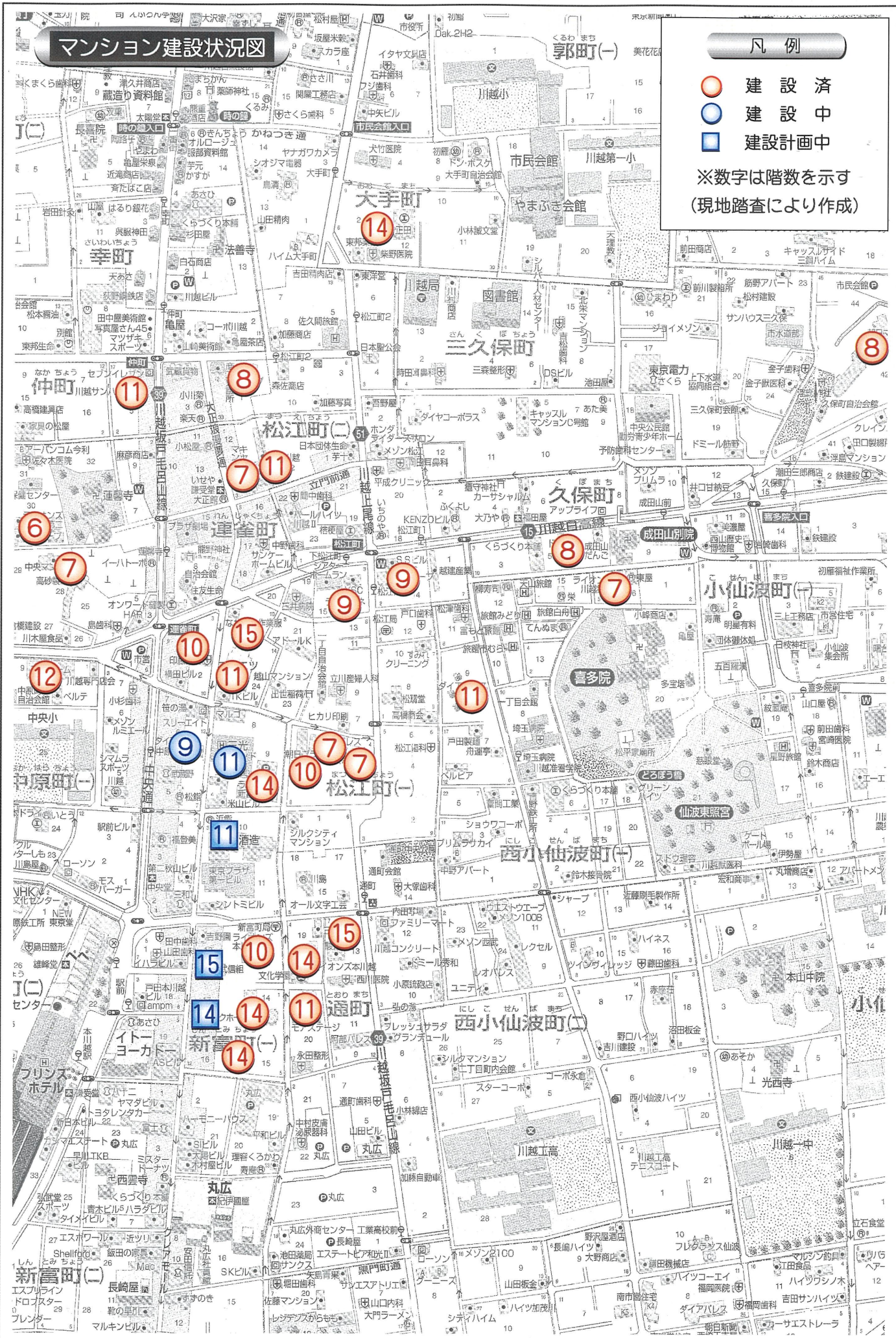
- ・川越市は、歴史的資源を再生・活用し商店や事業者との連携により、着実に観光都市としての成長を遂げているものの、年々増加する観光客に対する受け入れ体制は必ずしも十分とは言えません。例えば、安心して町並み散策やショッピングを楽しめる道路空間や、休憩施設、公衆トイレ、ポケットパーク等の整備、観光案内所等のサービスの充実等が求められています。
- ・自動車を利用した観光による交通渋滞への対応としてのパーク&ライド、パーク&サイクルライド等の推進が求められています。
- ・観光客の主な流動は、主に本川越駅方面から蔵造りの町並み、時の鐘等を結ぶ中央通り（県道川越坂戸毛呂山線）ルートや、喜多院方面から蔵づくりの町並み・菓子屋横町方面へ向かうルート上の県道川越上尾線、そして川越駅からのクリアモールの3つの南北軸に集中していますが、その延長上にある大正浪漫夢通りには必ずしも多くの観光客等は見られず、連続性の強化が求められています。また、東西軸は県道日高線と佐久間旅館と仲町の交差点を結ぶルート、市役所前と札の辻交差点間に集中し、他の東西軸は極めて弱く、これらの商店街の活性化が問題であります。
- ・川越市の総合計画をはじめとする各種上位計画等の中で、『歴史のまち・歴史と伝統を大切に作るまち・歴史的な建造物等を生かしたまちづくりなど』が示されていますが、急速に進む市内のマンション建設とあわせて、本市の貴重な資源である歴史的町並み景観をどのように考えていくのかが今後の大きな問題であります。

マンション建設状況図

凡例

- 建設済
- 建設中
- 建設計画

※数字は階数を示す
(現地踏査により作成)



第3章 現状の課題と問題点

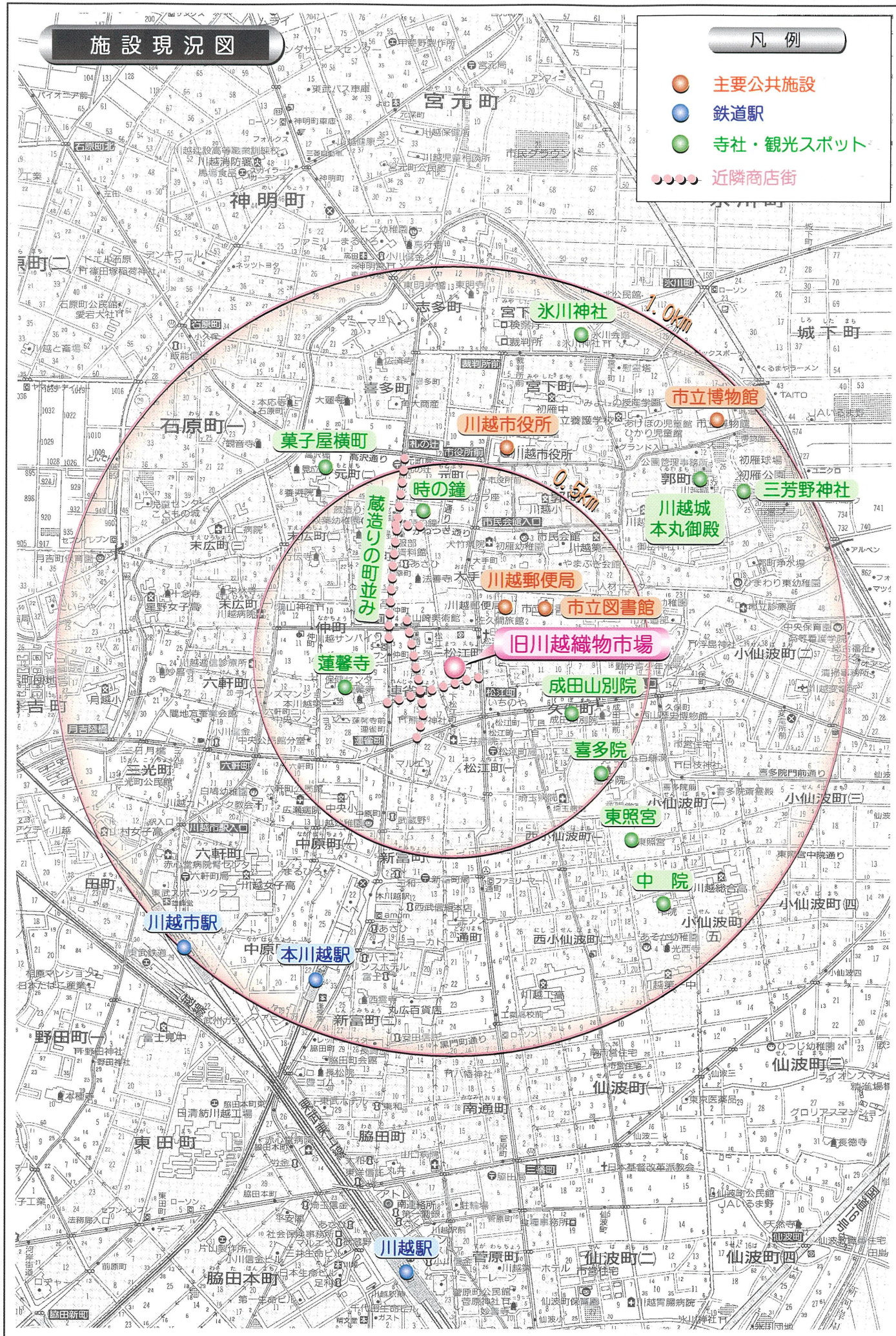
3-2 当該地域から見た視点

- ・旧川越織物市場の位置する松江町2丁目や、立門前商栄会等当該地域は、川越を代表する『川越まつり』の山車のコースから見るとほぼ中央に位置し、また従来の観光スポットの位置関係から見ても概ね中央（いわゆる『へそ』）の位置にあり、新たな観光資源として活性化の中心核としての活用が期待されます。
- ・立門前商栄会をはじめとする地元商店街を利用・通過する観光客等来訪者の動きについては、前項で述べたとおり蓮馨寺の門前通りでありながら、前後する東西軸となる通りに集中しており、旧川越織物市場の保存・再生（活用）による新たな観光面での歴史空間・商業空間の創出にも期待がもたれます。
- ・松江町2丁目には、自治会館等の集会施設がなく、日常のコミュニティ活動の場として、町内の日本キリスト教会や、個人宅をご厚意により提供いただき活用している状況にあります。

施設現況図

凡 例

-  主要公共施設
 鉄道駅
 寺社・観光スポット
 近隣商店街



第4章 基本方針

旧川越織物市場の保存・再生（活用）計画は、歴史的な建築物と建物本来の歴史的背景など貴重な資源としての保存ばかりでなく、それを再生し、地域住民はもとより多くの市民や、観光客等来訪者、周辺商店街や各種事業者との連携により、川越市の限らない活性化の機会の拡大と、地域住民のコミュニティ形成の『場の創出』等を目的とした活用を目指したいと考えます。

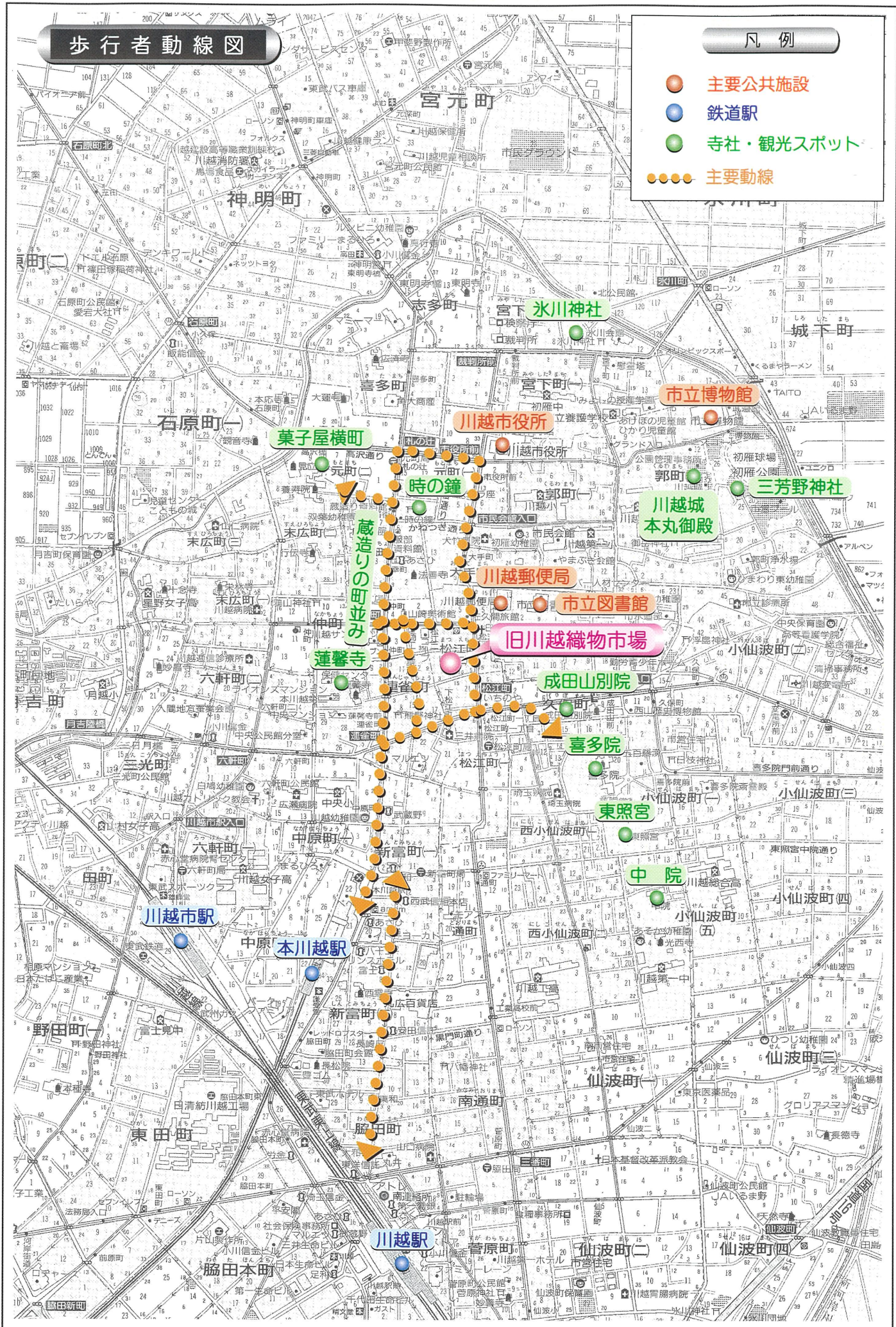
以下、基本的な方針に基づき、具体的な保存・再生（活用）計画を示すと以下のとおりとなります。

- ・再生と活用方策の検討・研究については、川越市と住民参加（ワークショップ形式等）の協働によるものが考えられる。
- ・計画に際しては、利用促進を図るため、それぞれの利用者（地域住民、市民、観光客等来訪者等）に応じた施設メニューを考える。
- ・旧川越織物市場を通して、他都市の織物等に関連する他組織・団体等のまちづくり組織との連携を図る。
- ・川越祭りの山車コースの中央に位置することから、新たな中心核としての機能を創出する。
- ・松江町2丁目や立門前商栄会、大正浪漫夢通り等をはじめとする当該地域の先導的役割を担い、『歴史的景観のまち：川越』の景観創出の中核を目指す。
- ・喜多院～蓮馨寺・蔵づくりの町並み方面を結ぶ新たなルート整備や、大正浪漫夢通り等との連携強化を目指す。
- ・高齢社会、バリアフリー化、国際化等への対応として、お年寄りや体の不自由な人、外国人等にもわかりやすい・歩きやすい・買い物しやすい・休憩しやすい空間整備として、ユニバーサルデザインに基づく施設・サイン計画等を考える。

歩行者動線図

凡 例

- 主要公共施設
- 鉄道駅
- 寺社・観光スポット
- 主要動線



第5章 保存・再生計画

第5章 保存・再生計画

旧川越織物市場の保存・再生（活用）計画は、基本方針に基づき、川越市の歴史的・文化的資源として、また地域住民・市民・多くの観光客等来訪者、或いは地域の商店街・各種事業者等、川越市の活性化に大きく寄与することが期待されるものとして、以下の活用計画（案）を提案致します。

また、同時に隣接する『栄養食配給所（第2章で紹介）』についても積極的に活用し、より時代的演出効果を高める空間創出に結びつけたいと考えます。

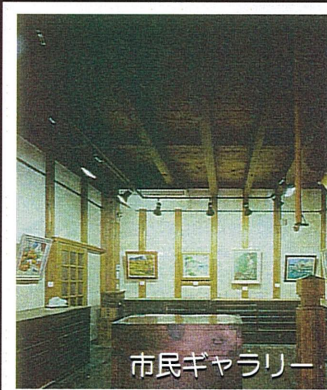
なお、建物の利用に関しては、1階部分については、出入りの容易な総合観光案内所や店舗・事務所等として、2階部分は織物ミュージアム、集会施設等の利用が考えられます。

旧川越織物市場活用計画（案）

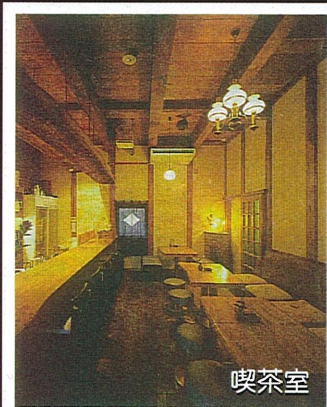
施設区分	内 容	備 考
歴史・文化施設	・旧川越織物市場を基本とした織物ミュージアム	
	・市立博物館の分館としての連携利用	
コミュニティー施設	・地域住民の集会施設	住民管理
	・各種カルチャー教室	
	・市民ギャラリー	
	・参加者相互の託児機能付きサークル活動	
観光案内・都市情報施設	・総合観光案内所（名所案内、コース紹介、お祭り、イベント情報、宿泊情報 など）	
	・都市情報の受発信（パソコン端末による各種都市・タウン情報の検索サービス など）	各種情報の一元化サービス
商業・業務施設	・川越関連商業（飲食）施設（いも菓子、いも料理、地ビール、その他）	レストラン・カフェ 等
	・川越関連織物等産業施設	物 販
	・新しい発想の民間アイデアによる貸店舗	
	・SOHO支援としてのオフィス利用	
	・上記を集めた複合的施設	
広 場	・定期的なイベント企画（伝統芸能・遊びなど）	お年寄りも主役
	・休憩施設	
その他	・公衆トイレの整備	
	・サイクルポート（パーク&サイクルライドの支援）	
	・栄養食配給所の活用	レストラン機能

長野県飯田市：三連蔵（市民交流施設）

江戸時代の土蔵を飯田市が買い取って、再生整備した市民交流施設。三連蔵のうち二の蔵は市民ギャラリー。入館、展示は無料。2階は25人程度が入れる三の蔵の集会室と連続している。サークルやNPOの集会、まちの情報基地として利用。三の蔵の1階の喫茶室は、夜は地酒、地ビールを提供するバーとして営業している。



市民ギャラリー



喫茶室

第6章 今後の課題と活用に向けて

旧川越織物市場の保存・再生（活用）計画を進めていくためには、今後以下に示す課題に対応していくことが必要であります。

- ・保存・再生（活用）に向けた事業推進のための体制づくりや運営に関して、例えば川越市をはじめ、TMOやNPO等のノウハウの活用や設立など、まちづくりの方策を考えていくことが必要であります。
- ・活用計画については、住民参加によるワークショップの導入や、多くの民間の自由なアイデア等を取り入れて、まちづくりの方策について研究・検討していくことが重要であります。
- ・管理・運営等については、今後川越市と住民等による協働作業により、進められていくものと考えられますが、その中で管理・運営等の経費節減を図るため、住民による一部管理等の役割を担うことも考えていく必要があると思われます。
- ・川越の歴史を愛する地元有志により設立された、仮称「旧川越織物市場保存・再生基金」の創設により、今後の具体的基金の運用と活用方策について、川越市との調整が必要であります。
- ・観光資源をはじめとし、各種都市情報・タウン情報、散策ルート、まちの構造等をわかりやすさの演出として、データの一元化による観光支援策を構築することが望まれます。
- ・蓮馨寺の門前通りとして立門前商栄会への誘導策として、中央通り側と川越上尾線と交差する両端のエントランス部に、ゲート性（例えば『川越らしさ、蓮馨寺の門前らしさ等』の、わかりやすさ）の演出や、快適な歩行空間の創出が望まれます。
- ・歴史を生かしたまちづくりを推進する川越市において、急速に進むマンション建設に対し、今後のまちづくりの方向性・取り組みとして、歴史的景観の更なる保全が望まれます。
- ・歴史的・文化資源的価値から、このたびの保存・再生の高まりを契機に文化財の指定に向けた対応が望まれます。また同時に、『旧鶴川座』や『旧栄養食配給所』といった建物についても合わせて考えていくことが望まれます。

〈参考資料〉

- ・第二次川越市総合計画 （平成13年3月 川越市）
- ・川越市都市計画マスタープラン （平成12年3月 川越市）
- ・川越市環境基本計画 『みんなでつくる、自然・歴史・文化の調和した 人と環境にやさしいまち』 （平成10年3月 川越市）
- ・『みんなではぐくむ 水と緑都歴史のまち・川越』 緑の基本計画
（平成10年3月 川越市）
- ・統計 かわごえ 平成12年度版 （平成13年3月 川越市）
- ・平成12年度 立門前商栄会 商店街魅力創出計画策定事業 報告書
（平成13年度1月15日 川越市・立門前商栄会 魅力創出計画策定委員会）
- ・川越一番街商店街活性化モデル事業 報告書
（昭和60年 川越一番街商店街活性化モデル事業推進委員会）
- ・エスプラナード No50 魅力ある街づくり 住民の主体性を取り込んだまちづくり
埼玉県川越市 （1999年4月1日 株式会社INAX）
- ・NIKKEI ARCHITECTURE （2001-10-1）